

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	ボーダレス化時代における法システムの再構築	研究代表者名	渡辺 浩
-------	-----------------------	--------	------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ (×) 概ね予定どおり達成した
- ウ () 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
魅力的ではあるが具体的な検証は容易ではないテーマに大人数で取り組んだため、研究の進捗状況にばらつきが見られたが、従来の概念枠組みでは捉えきれないものについて、法システムの再構築の方向性を示すことができた。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア () 十分に貢献できた
- イ (×) 概ね貢献できた
- ウ () 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
ボーダレス化に伴う諸現象とその相互の関連とを正確に把握し、新しい研究の枠組み設定の可能性を提言した点で、法学および関連分野における研究の発展に概ね貢献できた。もっとも、革新的な理論の提示には至っていない。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (×) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
この分野における学術の「創成」は難しく、この研究成果も限定されたものであるといわざるをえない。海外の研究者との有機的な連携などを深めれば、成果はより大きかったであろう。しかし、糸口は掴めたものと思われる。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (×) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
 第1期5巻が刊行され、第2期3巻の出版も準備中であるなど、研究成果の公表の努力を高く評価できる。フォローアップの大規模な会議も計画されている。成果の国際発信をいっそう積極的に行うことが望まれる。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
×	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

ボーダーレス化に伴う諸現象とその相互の関係を正確に把握し、従来の各法分野毎の縦割りの研究では迫り難かった諸問題を明らかにした点を高く評価できる。一方、現代社会に適合的な法システムの再構築に向けて、パラダイムの転換を促すような独創的な研究が成し遂げられるのではと期待させたが、実際の研究成果は、従来の法学の枠組みに修正を加えていくという地道で着実なものに止まっており、「法システムの再構築」に関する具体的な提言には至っていない。学際性の点でも国際性の点でも、もう少し「現代」を捉えるための枠組みを拡げつつ研究を進める努力がなされると、さらによかったのではないかと思われる。しかし、研究の成果を叢書全5巻にまとめてきていることは、高く評価できる。また、現実在即した着実な研究を積み重ねることを通してのみ、飛躍的な視野の拡大と現代がかかえる諸問題を包摂する世界規模の法システム構築が可能となるという側面もある。今後の発展と波及的な成果に期待をかけた。